

令和7年度中国四国産科婦人科学会評議員会議事録

評議員会： 2025年9月14日（日） 8:10-8:50

於：海峡メッセ下関 10階 国際会議場

出席者： 会長 杉野 法広（山口）

理事 岩佐 武（徳島） 金西 賢治（香川） 京 哲（島根）

下屋浩一郎（岡山） 杉山 隆（愛媛） 谷口 文紀（鳥取）

増山 寿（岡山）

監事 佐世 正勝（山口）

幹事 末岡幸太郎（山口） 原賀 順子（岡山）

評議員 小川千加子（岡山） 金崎 春彦（島根） 鎌田 泰彦（岡山）

熊谷 正俊（広島） 古宇 家正（広島） 佐藤 慎也（鳥取）

永井 立平（高知） 長尾 昌二（岡山） 中塚 幹也（岡山）

沼 文隆（山口） 林 和俊（高知） 松崎 利也（徳島）

三好 博史（広島） 向井百合香（広島） 米澤 優（香川）

オブザーバー 山口 建（広島）

（欠席者：工藤 美樹，前田 長正，江尻 孝平，岩部 富夫，
折出 亜希，加地 剛，近藤 裕司，斎藤誠一郎，
坂本 康紀，高橋 弘幸，竹原 和宏，伊達健二郎，
田中 宏和，中西 慶喜，中村圭一郎，花岡有為子，
皆本 敏子，矢野 浩史，横山 幹文）

会長挨拶：

杉野会長より，評議員会開催の挨拶があった。

報告事項：

- 1) 杉野会長より令和6年度会員数および会費納入状況，令和7年度会費納入状況，会誌発行状況について報告があった。

質問等，特になし。

- 2) 杉野会長より，本年度の学会賞（八木賞）について，学術委員会での慎重な審議の結果，島根大学の菅野晃輔先生の論文の受賞が決定したことが報告された。

さらに、八木賞については、従来、長年基礎研究・臨床研究を継続してこられた先生方を対象にしていたが、昨今受賞がない年が続いていることに鑑み、基準を少し緩和し、より多くの先生に応募していただけるような賞にしていこうということが学術委員会で決定した旨説明があった。

- 3) 杉野会長より、令和7年度臨床公募研究に2名の先生から応募があり、今年から学術委員会での応募者からのプレゼンテーション、質疑応答を経たうえで、審議した結果、川崎医科大学の松本良先生の「中国・四国地域における RPOC の臨床リスク因子と分子病態に関する他施設共同研究」が採択されたことが報告された。

質問等、特になし。

協議事項：

1) 令和6年度決算書

杉野会長より指名を受け、原賀幹事より令和6年度会計の報告があった。

収入の部は、1,271名の会員（過年度分1名を含む）から6,355,000円の会費の納入があった。機関誌収入において掲載料は789,269円であるが、発行の遅れに伴う請求書送付の遅れにより、令和7年6月末時点での未納金が25万円程度ある。予算は過去の投稿数と1編当たりの投稿料から算出していたが、オンラインジャーナルになりカラー印刷代がなくなったことから、1編当たりの投稿料が約2万円減収しており、予算と決算に乖離が生じた。なお刊行協力費（広告収入）は例年よりやや改善し、本年度は40万円であった。学術基金から学術支援費の拠出は令和6年度から廃止しており、決算額も0円としている。小計は7,813,422円で、13,846,725円が収入の合計となった。

支出の部は、総会費として200万円を徳島大学に供出し、機関誌刊行費においては制作費に2,488,200円支出した。「現代産婦人科」のオンライン投稿システムの使用料およびサポート料は投稿数60編で496,150円であり、令和7年度分を前払いしている。令和6年度分の超過料金の発生はなし。学会賞は該当なし、名誉会員は3名が推戴され、承認された。学会ホームページのサーバーレンタル、メンテナンス料に加え、現代産婦人科広告バナー作成経費を合わせ、215,600円を支出した。公募研究助成金は100万円を香川大学の鶴田先生に供出した。Plus One 産婦人科セミナーについては、昨年76回の本会で徳島大学において催行された開催費として967,036円を供出した。小計が9,952,770円で、3,893,955円が繰越金となることが説明された。

佐世正勝監事より監査報告があった。江尻 孝平監事と厳正に監査し、すべて適正に処理されていた旨につき報告された。

そして令和6年度決算書は、全会一致で承認された。

2) 令和7年度予算案

杉野会長より指名を受けり、原賀幹事より予算案について説明があった。

今年度の会費納入の義務のある会員数は1,262名で、会費納入率は例年99%以上であること、また若干名の過年度会費納入を勘案し1,262人分で計算した。機関誌収入について、刊行協力費は例年厳しいが、オンラインジャーナル化に伴い広告の掲載形式を多少変更し、昨年度は少し広告が増加したため、その実績を踏まえ30万円とした。掲載料は、昨年度予算で過去3年間の投稿件数および1編あたりの掲載料より、220万円を計上していたが、カラー印刷代の収入が減じたためその実績を踏まえ、掲載料は650,000円とした。文献許諾使用料は、昨年度を参考に4万円とした。学術基金からの学術支援費は令和6年度から学術基金からの学術支援費の支出は廃止している。利息は昨年度わずかに増額したが、過去の実績を参考に例年通り1,000円とした。収入の小計が7,301,000円で、前年度繰越金と合わせて11,194,955円が収入合計となる。

支出の部については、総会費は例年通りに200万円とした。機関誌刊行費は、友野印刷株式会社の見積もりにより製作費として1冊100万円（税別）で、年2回の発刊で220万円、英文抄録の英文校正代は昨年度同様に10万円とした。オンラインシステムの年間使用料およびサポート料は株式会社杏林舎からの見積もりで496,150円（投稿数60編）であるが、年々微増しており、若干の投稿数上乘せ分を合わせて55万円を計上した。また、編集協力費は、昨年度同様に100万円とした。委員会費は10万円とした。学会賞費は副賞の予算を見直し、1名分20,000円を計上した。名誉会員表彰は毎年何名該当者がでるか不明であるが、一応予算としては3名分計上し、学会賞費と同様に副賞の予算を見直し60,000円を計上した。管理費は人件費、消耗品は例年通りとし、通信事務費は例年の実績を踏まえ50,000円に減じた。ホームページはサーバーレンタル料、メンテナンス料として10万円を計上した。また『現代産婦人科』において広告にリンクするバナーを作成しているため、バナー作成費として88,000円を計上した。公募研究助成金は例年通りに100万円とした。Plus One産婦人科セミナーは例年100万円を上限支出しているが、今回77回で開催がないため予算は0円とした。小計が8,368,000円で、2,826,955円が繰越金となると説明がなされた。

そして予算案は、全会一致で承認された。

続いて、杉野会長より、「現代産婦人科」の投稿料の増額と、年会費の増額について説明があった。

令和6年度決算および令和7年度予算において、繰越金が100-200万円の減少となっている。1つの要因として、「現代産婦人科」のオンラインジャーナル化に伴い、1編当たりの掲載料が3万4千円から、カラー代がなくなったことで1万3千円程度と2万円の減収となっている。オンラインジャーナル化する際に経費削減ができるという見込みを説明していたが、例えば令和3年度は刊行費が735万円かかっているところ令和6年度は430万円となっていることから経費削減にはつながっている。しかし投稿数の減少などもあり、100-200万円の慢性的な赤字が続く見込みである。そこで、1つ目は「現代産婦人科」の投稿料を1万円から2万円に増額することを提案する。参考までに他のブロックの学会誌は、関東は2万円、東海は1万円、近畿が2万円となっている。年間50編投稿があるとする、約50万円の増収になる。さらに2つ目として学会の年会費の増額を提案する。現行5,000円を6,000円に増額する。参考までに他のブロックの会費は、東北が4千円、関東が7千円、東海が3,500円、近畿が1万円、九州が3千円となっている。今回本会の会費を6,000円に上げることをお願いすると、年間120万円程度の増額になる見込みである。これらは令和8年度から開始の予定である。

特に質問や意見はなく、全会一致で令和8年度からの年会費の増額と「現代産婦人科」投稿料の増額が承認された。

3) 次期および次々期総会開催の件

杉野会長より、来年の第78回は愛媛大学が、第79回は川崎医科大学が主催する旨報告があった。

愛媛大学杉山理事、川崎医科大学下屋理事よりそれぞれ挨拶があった。

4) 役員交代について

杉野会長より次期会長は杉山理事に交代し、理事は工藤理事から広島大学教授になられた山口建先生に交代、前田理事は退職されており、高知大学の教授が決まり次第理事に加わっていただくことで現時点で未定、その他各役員の交代についても別紙の如くとなる旨が報告された。

役員交代につき全会一致で承認された。

5) 名誉会員推戴について

杉野会長から、広島産科婦人科学会より土谷治子先生、村上朋弘先生、山口産科婦人科学会より藤野俊夫先生の計3名の推薦があったことが報告された。

協議の結果、3名の先生の名誉会員への推戴が承認された。

6) プロジェクト Plus One 産婦人科セミナー収支報告について

杉野会長より、昨年の本会で徳島大学が Plus One セミナーを開催した旨が報告された。

18名の医学生、初期研修医が参加し、超音波シミュレーション、分娩シミュレーション実習が実施された。収入は0円、支出の967,036円が満額学会から支出されたことが報告された。

特に質問なく、収支報告について全会一致で承認された。

7) 異動された名誉会員の取り扱いについて

杉野会長より、異動された名誉会員の取り扱いについて説明があった。香川県の樋口和彦先生が中国四国地方外へ異動されたとのことで、本会の名誉会員の取り扱いについての相談であるが、これは先例もあり中国四国の会員として尽力され、その貢献に対して与えられた称号であるため、継続して名誉会員でいていただくことでよいと考えている。

特に質問なく、本件について承認された。

8) 中国四国産科婦人科学会内規変更について

杉野会長より、説明があった。年会費については本会内規に規定されている。内規の変更は評議員会の議決で決定されることになっている。令和8年度より年会費を6,000円とする旨、内規を変更する。

特に質問なく、本件について承認された。

杉野会長より閉会の辞あり、閉会。

以上